

心に残る文化財子ども塾 雲南市立佐世小学校

1. 活動の概要

6月10日(木)、雲南市立佐世小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。佐世や大東、雲南の縄文時代から古墳時代の遺跡や勾玉について学習し、体験活動は「勾玉づくり」を実施しました。はじめに、島根県埋蔵文化財調査センター職員が佐世や大東、雲南の縄文時代から古墳時代の遺跡について視覚資料を用いて解説しました。学校周辺の遺跡について解説するとともに、勾玉についてはクイズ形式で学習してもらいました。このほか、島根県雲南市及び飯南町出土の遺物(土器、玉類)、教室内に展示して児童の皆さんの参考にしてもらいました。

体験活動では、勾玉作成の手順をもとに、児童の皆さんそれぞれが勾玉の制作に取りかかりました。ある程度下準備をして工程を進め、C字形に成形して紐通しの穴を穿孔した勾玉の素材となる石材(蠟石)を棒やすりで削り、角や稜線を丸くなめらかに加工して勾玉の形に整えて、最終工程で磨きをかけ全体につや、光沢を出すという、古墳時代の勾玉づくりを体験してもらいました。制作中は、個別に指導・助言・実演しました。設定した時間の前後でおおむね皆さんの勾玉が完成しました。最終工程のみがきについては、自宅などでもできることをお伝えしました。

2. 活動の様子

1) 学校周辺の遺跡や勾玉について知ろう



学校周辺の遺跡について解説



島根県内出土遺物の観察

2) 古代体験活動～勾玉づくり体験～



勾玉クイズの様子



勾玉作り古代体験の様子

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

・
・

・
・

2)担任の先生から…

- 地域の遺跡についてふれたことで子どもの興味が高まった。
- クイズ問題があり、分かりやすく理解ができた。
- はじめの方の解説説明も子どもたちと会話のキャッチボールをしながら進めてもらうと良いと思いました。
- 縄文～奈良時代あたりまではたくさんプランがあります。それ以降の時代もあるといいと思います。

3)埋文センターから

勾玉の意義、意味、装飾品威信財としての役割、材質、産地、製作法などを多角的にクイズ形式で児童の皆さんに提示したことにより、勾玉についていろいろ興味を持ってもらえたのではないかと思います。

勾玉づくりでは、古墳時代の玉作りの様子を伝え、工程にしたがって、途中の成形工程、最後部分の研磨工程を体験してもらいました。皆さん、熱心に作業をされ、時間の中でおおむね完成。紐を通してペンダントにするとこまで行けたようでした。